

昭和51年5月9日第三種郵便物認可（毎月1回1日発行）昭和52年7月1日発行 通巻68号 ISSN0385-5457

# ヒマラヤ

HIMALAYA

1977年7月号



日本ヒマラヤ協会——HAJ

HIMALAYAN ASSOCIATION OF JAPAN

**HAJ・ヒマラヤ集会** (18時30～20時)  
無料または実費

<東京> 6月23日(木)

テーマ★中央アジアとチベットをめぐる

講師：金子民雄(中央アジア研究家)

『中央アジア・シルクロード』の出版記念会をかねます。中央アジアやシルクロードへの夢を語り合ひましょう。

ところ★日本交通協会会議室・新国際ビル9階  
(国電有楽町日比谷口、都庁南西角)

<岐阜> 7月8日(金) 18時30「穂積」駅集合

テーマ★アンナプルナ山麓の旅(8%映画)

<登山> 岐阜の集会終了後、笠ヶ岳への登山をします。7月10日までの2泊3日。申込は6月30日までに HAJ 名古屋事務所へ。

<名古屋> 9月9日(金)

テーマ★ネパール・トレッキング

**HAJ・ヒマラヤ調査隊・ツアー**

<ラダック・カシミール>

◇8月4日発 19日間、28日間

カシミール・ラダック自由トレッキング

234(千円)(添乗員なし)

世界の屋根を行く 450(千円)(ガイドあり)

◇8月7日発 14日間 372(千円)(添乗員あり)

◇8月7日発 9日間 372(千円)( " )

東洋のスイス・カシミール・パカンス旅行

<ネパール>

◇12月25日発 29日間 212(千円)(フリー)

12月26日発 15日間 348(千円)(添乗員あり)

12月29日発 8日間 286(千円)( " )

エベレストでお正月を・ネパール・トレック

※ ※ ※

詳しい日程表がありますのでお問合せ下さい。  
上記の費用は52年4月1日を基準としており、航空機、現地の都合で予告なく変更することがあります。

第7回 東日本ヒマラヤ研究会(予告) 6月25日(土)～26日 参加費 8,000円(宿泊費・会議費他)  
場所 秋田市大町3丁目 協同社大町ビル ◇前夜祭 6月24日(金) 同一会場 映画会(300円)  
日程 第1日目 10時開会 ◇1976～1977のヒマラヤ/日本人とヒマラヤ/トレック・セミナー  
◇パネル討議 ヒマラヤの可能性を探る/地域別情報交換会  
第2日目 遠征組織論(よい遠征のために)/ヒマラヤとシルクロードを駆ける 12時閉会

「ヒマラヤ」7月号 目次

<ヒマラヤ紀行>カラコルムの山旅(7)最終回..... 1	東京・岐阜・名古屋ヒマラヤ集会報告..... 11
ミニ・ニュース その1..... 3	<読者だより>
ラダック(その2)..... 4	日本からヒマラヤから..... 12
<H&S>プランのページ	<関係の機関・団体 その8>
HAJ 隊ベミールへ向かう..... 5	農林省 熱帯農業研究センター..... 13
ヒマラヤの本・資料..... 6	ミニ・ニュース その2..... 15
HAJ 在庫資料..... 8	レストハウス 書評 民族探検の旅第3集... 16
新刊紹介..... 9	ヒマラヤ基金について..... 17
<ヒマラヤ学入門 その48>	理事会要旨..... 17
ヒマラヤ関係資料の入手方法-その2... 10	予告・「ヒマラヤの彼方へ」..... 18

[表紙画: 今村朋信]

1974年6月から9月まで、私が静岡登攀クラブのメンバー8名と一緒にカラコルムのピアフォ氷河にあるバインターブラック(別名、オーガ、7,285 m)の登頂を目指したときの記録です。

まず小高い岩の上に登って、積んだと思うあたりを見当づけてみる。なかなか見当らない。しばらくキョロキョロしているうちに、あったあった、ポツンと石燈ろうのような格好で岩の上に乗っかっている。もう迷わず一直線にケルン目指して下って行く。そして、その次もその次もという風にして確かな道へ導かれて行くのだ。自分の積んだケルン、これは日本の山々に誰彼が積んだものとは違って、ここでは本当の友達だ。ちょっとでも見当らないとすぐく不安でたまらない。そして、それが目に入ったとき、思わずホッとする。

我々は一人ずつホイッスルを持っている。いつでもすぐ使えるように首につるしてあるが、このケルンのおかげで使わずに済むであろう。繁雑な社会を遠く離れてこんな未知の山奥まで来ると、人間のほんのちょっとした行為までが、心の中にほのぼのとした温か味を与える。たとえそれが空缶でも、フィルムのカラ箱でも。

#### 雨の停滞

今日は仲間が寄せ書きをしてくれた旗の文句を隅から隅までゆっくり読んだ。一人一人の顔を思い出しながら文を読んでみると、いつしか心が温かくなっていく。友達っていいなあ。仲間があることは何物にも替え難いものなのだ。ふだんあまり喋らないあの娘がこんなことを書いてくれるなんて、まるで心にしみ込んでくるような詩情豊かな文章。あのゴタが、ゴタはゴタなりに雑ばくだが、男らしい短かい文句で気遣ってしてくれる。本当によく書いてくれた友、友、友よ。雨のBCでもちっともたいくつしないさ。

夜……。K君が発前夜にカセットテープに吹き込んでくれた何曲かを聞いた。ローソクの灯も点さず、時々バラバラとくる雨足の音の中で、故郷を思い出させる赤トンボや知床旅情。しみじみ

聞いた日本の曲であった。K君も丁度胸の痛みの最中であり、録音中に涙が出たと言っていた。今時珍しいさっぱりとした気持の素直なスポーツ好きの青年であった。彼女とのフレッシュな交際も実を結ぶに至らなかった心の痛手の中で、笑顔で見送ってくれた彼に、恋をしないよりした方がいい。全て若き日の君にとって美しい思い出の一夏ではないかと、肩をたたき握手をしてきたことがしきりと思い出される。

今度逢うときは秋だな  
きっと君にとって良い季節になるだろう  
そして、冬はまさに君の天下だ  
白銀の中で、玉の汗をかいて  
思い切り滑ろうか、友よ  
今、日本は梅雨もあける頃だな  
真白な夏雲を仰いで、友よ  
再び明日に向かって歩き始めた君を  
遠いカラコルムの大地で、ひたすら確信している

7月25日

昨夜から引き続き雨であった。外へ出たら驚いたことに、BCの裏山に雪がきていた。このぶんだとABCは完全に雪だろう。皆はどうしているだろうか?明日は雪の状態を見ながら出かけてみよう。この雪の量だと雪崩も心配だし。

そんな所へ重々しい靴音がしてF隊員が帰ってきた。はれぼったい目、疲れた表情。彼は調子が悪くてABCから下ってきたのだと思ったら、彼の口から以外な言葉が出た。「雪崩でACがながされ全員パー。」とげっそりした表情で言ったのだ。

「え、そりゃ本当か!」「皆は無事だが、装備・食料一切流されて登攀不可能で下ってきた」、ということであった。外へ出てみると、皆バラバラに間隔をあけて下ってくる。思わずかけよって「無事で何より、本当に御苦労さん」、もう後は言葉にならなかった。「本当に無事でよかった」とお互い何度もその言葉をかわし合って、早速桃の缶詰で今朝から何も食べていないという腹の足しにしてみよう。

雪崩は23日の夕方6時半頃テントをおそったというので、夕仕度の最中、第2峰側より落ちてきた。ACは直げきではないが爆風で飛ばされてしまった。テントは2張りで、一つに3名づつ入り3人用テントなので、食糧・装備は全て外へ出した。このため、殆んどの装備と食糧は雪崩と共に失ってしまった。そして6名は無事である奇跡の中で、着のみ着のままの長い夜明けを待つことになった。

こうして我々のオーガー南壁登攀計画は高度5,700mで打ち切られる結果となったが、今、全員が冗談まじりの会話ができることの意義を深くかみしめている。仲間たちは皆「カサイさん ACへ来なくて良かった」これには意味があった。つまり僕が一人登っていくことによって、テントをもう一張り増やしたことは事実になったであろうし、その場所は雪崩の本流以外に場所が無かったことである。今回はそこに置いた装備・食糧が身替りになって、重いデブリの底へ消えたからである。僕はふと、送り出してくれた人々との約束を今一度じっと思い出している。隊長をはじめ、隊員が快くこの約束を守れる環境においてくれたからこそ、今元気でいられるのではあるまいか。つらいビバークの影をそのままB.Cへ持ち帰った彼等に感謝と今できる限りの慰めで、温かいテントに迎え入れることしかできない僕は、他に為すすべを知らない。

隊長は雨の中でじっと黙って言葉少なに、隊員を迎えていた。全員が帰ってもなお、雨で見えぬオーガーの彼方をじっと見つめていた。隊長の立場というもののはどんなものなのだろう。誰彼に話すでもなく、じっと雨に打たれているのである。

夜、再びお互いが無事なことや、失くした装備は、命あってまた働けば、いつでも買えることなど、笑い声もぼつぼつ出て、遅くまで、久々に話がはずんだ。

7月29日

昨日、4名の先発隊は一足先にアスコレーへ下って行った。我々は、今日是对岸のフォーブロックへ行くことになった。ピアフォ氷河を横断しながらの山々と氷河の流れは、また格別であった。何万年もの彼方から氷の中を浮き沈みして運ばれてきた石の数々。そして二つの流れのぶつかり合う

場所では、両者は互いに反発し合って一つの高みを作っている。

流れは目にこそ見えないが、本当にあるんだなと感ずる。この氷河の上から眺めたウズンブラックの山々は素晴らしい。我々が目指したオーガーは、やはりピアフォ氷河の王者である。氷河の中間点からは、遠くヒスパール・パスの方も眺められる。いつだったか、シガール谷がこのヒスパール・パスを越えてきた侵略者によって、谷の平和を荒されたことを思い出した。対岸迄4Kmあると言った通り、意地になって氷原を歩くのであるが近づいた様子がない。それでもやっとモレーン帯に入り、目的のフォーブロックを目の前に見た。

きれいな氷河湖が、人一人いない静かなたたずまいの中であった。のどが乾いて、みどり色に澄んだ水を思い切り飲んだ。湖に映る囲りの山々。湖に落ち込んで来る氷河と山の斜面。山の斜面には、また何と沢山の花が、今を盛りと一面に咲いているのであった。まるでおとぎの国がそこにあるようであった。早速、故・浜さんのハーケンを打つ場所を捜す。ちょうど山の中腹に、まるで仁王のような大きな岩があって、いつでも行動を共にしてくれたU君と一緒に連れてくれることになった。湖から30分程登って大岩の頭についた。何と素晴らしい眺めであろう。

カラコルムの山々が、その山容を誇らし気にしてそびえていて、やや傾いた陽とぬけるような空は何と壮厳であろう。山のピリッとした厳しさと対象的にこの大岩の囲りには、あこがれのエーデルワイスが足の踏み場もない程咲いているし、ルリ色の可愛らしい花は、ちょっとしたそよ風にもゆらゆらとゆれた。仕事や物の考え方に一本筋を通した人。その反面、まるで子供のように優しい想いをチョッピリのぞかせて、全く感傷的になってしまう人。そんな人に全くふさわしい素晴らしい場所であった。ACの雪崩にひとふりだけ残った僕のハンマーも、今日のこの日のために残ったのかも知れない。

奥さんから預ってきた、たて横兼用ハーケんと、僕の鉄のカラビナ。僕はひと通りこの大岩を回ってみた。もし泊ろうと思えば岩小屋にもなるし、大岩の頭は絶景を楽しむ展望台であった。いつか、もし誰かがこのフォーブロックの裏山に登る時、この絶好の岩小屋を利用して、きっと頂を極める

ことができるであろう。ここは雪崩も岩くずも落ちてこない。いこいの場所である。ちょうどひさしの下によいリスがあって、そこへ思い出を残すことにした。澄んだ空気と紺碧の空の下で、ピトンのキンキンという音が天へ吸い込まれていった。しばらく打つ手をやめた。何だか淋しくなってきた。ここへ打って残して行くことが、とても悲しく切ない気持であった。日本へ持って帰ろう。いつもそばに置いておこう。その方がいい。しばらく、こんなジレンマの中でどうすることも出来ず、手を休めて遠くの間山を眺めた。

U君は僕の気持を理解してくれていた。

「やっぱりこのカラコルムの山の中へ残して行くことがいいんだな、カサイさん、こんなきれいな場所はない場所はないでしょう。」

再びピトンが快く岩にくい込んでゆく音を聞きながら、何回打っただろうか。岩にガッチリくい込んで、岩とピトンが一体になった落ちついた音を聞いた。U君がシャッターを押してくれ、ピトンを打つ音のしない静けさの中で、小鳥の声と、そよ風の歌を聞いた。そして更に雪を抱いたカラコルムの山々の讃歌は、氷河やモレーンを越えてひとしきり胸にせまってくるのであった。山に逝った人の元気な面影だけが強く思い出されて、一山男の短かかった、しかし充実した生涯が、次から次へと泉のように湧き出てくるのが不思議であった。

僕は貴男の多くの意志の中の、ごくわずかを受け継いで行くであります。それは自然の美しさと人の美しさの調和を語った貴男への、私にできるささやかな、しかし固い約束です。そろそろお別れです。これからまた僕達のBCへ帰らなくてはなりません。僕の分身のカラビナは、いつも貴男と共にあります。

隊長とS氏はすでにモレーンを越えて氷河へ出ていた。僕はそれでもなおゆっくり、この岩の罅りに咲いている、それは沢山のエーデルワイスの中から、これはあかねちゃん、これは哲ちゃん、岳志君、そしてこの岩に一番近いところのは、貴男が理屈を言って愛した奥さんに。そして幾つかの花は仲間と、と自然保護を強く訴えた貴男の前で、僕はそれをしたのです。

ゆっくりともう一度まわりを眺めてみる。ピトンとカラビナ、きついつ返もこの静かな湖と花

と山の中で、僕等の物語を大切にしてくれるだろう。

もうあたりは夕暮れの色であった。民家もないのに、うす紫色に山影が映えて、空は宵の色に落ちる仕度を始めている。ソフトな山肌を下りながら、きれいな石をいくつか拾った。真白な真丸いきれいな石、緑がかった石、そして偶然に、地藏さんを思わせるような石が目にとまった。アンナブルナに逝って帰ってこなかった人の替り身のようなこの石は、手にしてみると、見れば見る程不思議な石であった。じっと見ていると何とも静かな表情をたたえた仏のような気がするのである。ここへ来る時苦勞した氷河の横断も全く苦にならず、遠いヒスパー・バスの夕暮れを眺めてベンターのモレーンを越えると、目の前はBCであった。たった2時間で横断してきたのであった。

今日は隊長の深い理解で、僕と浜さんのためにわざわざフォアブロックへ行ってくれたのであったし、皆、僕が約束を果たせたことを心から喜んでくれた。良い仲間の理解があったからこそ出来得た約束を、僕は今日、幸せということの意義やそのこと自身をしみじみ感じた一日であった。

テントの外へ出れば、相変わらず美しい月であった。小高い丘へ登ってフォアブロックを眺めてみる。もうすっかり夜の沈黙の中で、腕の水晶時計が正確な時を一秒一秒刻んでいる。この一秒一秒が永遠を、過去から現在、そして未来へと刻んで行くであろう。やがて虚無の世界が訪れ、僕は仏に仕える身になり、このカラコルムの山々をもっと高い場所から眺めることであろう。命ある日々の不思議を、ちょっぴり感ずる夜であった。

(完)

## ミニ・ニュース

## その1

### 門司山岳会・ナンダデビー東峰へ

1978年ブレ・モンスーンに同峰へ遠征することが決定した。

### 第2回国際トレッキング開催予告 - HAJ後援

本年につづいて同じキシュトワール・ヒマラヤで来年(1978年)5月~6月に開催される。コースもほぼ同様で、「ヒマラヤ」を同封した封筒にあったものである。ただし費用は若干アップする。

## ラダック (その2)

Govt. of India 発行、  
「Ladakh」より小栗恒夫訳

(以下は「ヒマラヤ」第65号のつづきである)

### 〈習 慣〉

一妻多夫は次第に一夫一婦の結婚に変わりつつある。大きな修道院の独身者のラマ僧の儀式と、一妻多夫の慣習は人口の増加につれて制限された。ラダック人の結婚の習慣は多くのおもしろい特色がある。たとえば新郎は新婦のところへ行かないで新婦は近くの親族のところにつれてこられる。子供の誕生は喜ばしい出来事であり、また、友だちによっても喜び祝われる。絹で飾られた矢は名誉と栄誉の象徴として小供のまわりの近くに垂直に固定される。小供はラマ僧に従って名前をつけられる。

仏教徒が死んだ時、遺体は数日間そっとしておかれる。この期間は、死者の生前の役職で決定され、ある時は2週間以上もそうしておかれる。それから偉いラマ僧が死んだ人の霊を一時的に呼びもどすためのある儀式を行なう。遺体はそれから洗われ、新しい白い布できれいにかがられ、ラマ僧の一団が神聖な教文を読教する間、遺体は土の上におかれる。最後に遺体はめでたい日を選んで火葬される。

ラダック人にとって先祖の思い出は神聖である。

### 〈服 装〉

ラダックの人々の服装は簡単でしかも美しい。寒さに備えて保護のためにうすい羊毛のマントを身につけている。彼らの頭飾りは刺し縫いのしてある帽子か、羊毛の帽子かどちらかで、首と耳を保護する大きな「たれ」がある。長ぐつは羊毛のうらをフェルトして作られ、彩色された布地でこまごまと飾られている。

男は飾りが好きである。彼らのベルトからぶらさがった物のいくつかは旅行準備に絶対必要な小物である。片刃のナイフ、火打ち石、お茶とたばこの袋、あざやかな色の鉄パイプと茶器などである。

婦人は、大きなしまの羊毛の上着とひざ下までとどく多色の羊毛のドレスを着る。しか皮の毛をあみこんだチョコッキのようなものを肩にかけている。額から髪に分れ目へ細く長い粗末なトルコ石のボタンをつけたベルトをしている。エプロンの

ような布を腰から下へたらしめている。それはたい  
てい羊毛のふさか子安貝のふさでままとめてある。

(つづく)

### スリナガル・レー間のレストハウスなど

下記の地点に PWD ( Public Works Department ) のレスト・ハウスなどがあります。宿泊は直接申し込むか、スリナガル観光局かカルギルの Executive Engineer ( Road & Building ) にお問合せ下さい。

#### ◇ダラス ( Drass )

レスト・ハウス。バスつき。水道もある。5部屋。

#### ◇カルギル ( Kargil )

ダック・パンガロー。水道とバスあり。8部屋。

#### ◇カルセ ( Khalse )

レスト・ハウス。水道なし。1部屋。

#### ◇レー ( Leh )

ダック・パンガロー。10部屋。水道とバスあり。

サーキット・ハウス。5部屋。

いずれの宿泊施設も食堂はないので食事は各自で準備する必要がある。また、満員のことも多いのでテントを持参する方がよい。

	地 名	距離 ( Km )
1.	Sonmarg	84
2.	Sarbal	92
3.	Gumari	110
4.	Meenmarg	119
5.	Matyan	127
6.	Drass	147
7.	Thashgan	170
8.	Kharbu	180
9.	Channigund	194
10.	Kargil	204
11.	Mulbekh	244
12.	Namika La ( 12,220 ft )	259
13.	Bodkharbu	274
14.	Henis Kut	283
15.	Fatu La ( 13,479 ft )	295
	( highest point on Srinagar Leh road )	
16.	Lama Yaru	310
17.	Khalse	337
18.	Saspol	372
19.	Nimmu	398
20.	Leh	434

## < H & S プラン > のページ

### HAJ 隊 パミールへ向かう

日本ヒマラヤ協会が創立されてから1981年で15周年を迎える。この記念事業として「シルクロード&ヒマラヤ一周大作戦（H&Sプラン）」プランが立案された。この計画は5年の歳月を要し、自動車によるシルクロード一周とヒマラヤの山々を登るといふ遠大なものである。

初年度は1977年からスタートする。トップバッターとしてパミール隊は、来る7月18日、日本を発ちモスクワ経由でパミールへむかう。

すでに「パミール通信」第1～第6号を発行し、3月19～21日の御岳、5月29～2日の富士山、5月20～27日にかけての名古屋大学の低圧実験室で各隊員とも1泊2日の検査とトレーニング、さらに5月末、7月初旬の強化合宿と進め、万全の準備で出発する。成果が期待される。

なお、報告会は「秋のヒマラヤ集会」でおこなう予定である。

#### 目 的

イ、コムニズム峰（7,495 m）およびその周辺の山の登頂。

ロ、学術調査（高所医学、植物）

ハ、外国登山家との交流

#### 隊の名称

1977年日本ヒマラヤ協会パミール登山隊

HAJ PAMIR EXPEDITION 1977

#### 時 期

1977年7月18日～8月22日

#### 参 加 者

増田秀穂  
（隊長）

内田嘉弘  
（副隊長）

高橋純一  
（ドクター）

前田 清

中西喜和男

#### 留守事務局

〒468 名古屋市天白区一つ山1丁目44-7

日本ヒマラヤ協会名古屋事務所

#### 現地連絡先

Mr. H. Masuda (Himalayan Association of  
Japan)

C/O USSR Sports Committee, International Mountaineering Camp  
<Pamir>, 69, Skaterayl, 4,  
Moscow, USSR (ソ連)



パミール・コムニズム峰（7,495 m）

登頂予定ルートは最低コルより左手の氷壁を登り稜線に出て、頂上より左にのびた岩稜をたどる。

（JAC隊・鶴田倍弘氏提供）

~~~~~ ヒマラヤの資料・本 ~~~~~

東洋学の創始者たち 吉川幸次郎 編  
51年10月 320 P 講談社 1,300 円  
白鳥庫吉ほか東方学の秀れた先達 6 人を語った  
座談会を中心にまとめた。

新しいシベリア 白井久也 著  
サイマル出版会 51年 1,800 円

インド・モンゴル トルコ旅行 三宅勇三  
東京三龍社 200 円 51年

ウランバートルへの道 平原竹治 著  
下関、赤間閣書房 51年 1,000 円

福音の光をかかげて エドワース著 吉田聖訳  
エンデルレ書店 51年 1,300 円

ネッシーと雪男 超常世界への挑戦シリーズ  
第3巻 アンガス・ホール著 144 P 980 円  
51年 学習研究社

小説仏教シリーズ(全20巻) 各780 円  
インド・中国編 — 名僧、高僧

⑪阿育王 ⑫ミリンダ王 ⑬カニシカ王 ⑭龍樹  
菩薩 ⑮無着と世親 ⑯鳩摩羅什 ⑰天台大師  
⑱玄奘三蔵 ⑲妙楽大師 ⑳伝教大師 など、  
51年 第三文明社

遺跡の旅 第2巻「シルクロード」(全5巻)  
51年 980 円 学習研究社

流沙海西古文化論考 —シルクロードの東西交  
流 370 P 51年12月 相馬隆著  
6,400 円 山川出版社  
孝古学資料を用いる東西交流編の新展開

イスラムの世界 第1集(並河萬里遺跡をゆく  
全3巻) 51年12月 132 P 前島信次監修  
1,600 円 学習研究社  
イスラムの文化遺産を視覚的に明快に説明

夜明けのガンジス川 子どもの文学 12  
郡 楠昭・作/絵 菊判 154 P 780 円  
51年12月 偕成社  
インドに取材して描いた勇氣ある少年の物語

日本語の祖先 安田徳太郎 著 5,500 円  
51年10月 大陸書房

「万葉集の謎」「人間の歴史」の著者が、日本  
語の祖先をヒマラヤのシッキムやブータンに住む  
レプチャ族に求めて解きあかした。

ヒマラヤのふえ 世界傑作絵本シリーズ  
A・ラマチャンドラン作/絵 A4変 48 P  
51年10月 880 円 福音館書店  
インドの現代画家が描くヒマラヤの民話絵本

野生時代 第3巻第6号(雑誌)  
「チベット風浪十万経」(藤原新也)「シルク  
ロード文様図鑑」(森豊)「古代ルートの人たち」  
(藤井知昭)「異教徒の谷」(向後元彦)他

ハラムク登山報告書  
カシミール・ヒマラヤ—2週間の山旅・1976年  
52年2月28日 安藤昌宣編 六峰山岳会カシミ  
ール登山隊事務局 振替 東京0-8 5 9 7 4  
800 円 送料 200 円 計1,000 円

1976年夏にスリナガルの北方にある5142 mのハ  
ラムクに登った記録である。行動日誌を中心に、  
この短期間に登頂に成功した隊の動きが要領よく  
まとめてある。各係の報告、印象記もある。これ  
迄ははっきりしなかったハラムク山群の標高や地形  
を解明した点も高く評価されよう。

入手希望の方は上記へ振替で送金するか、現金  
書留で「〒110 東京都台東区池ノ端4-26-5 高橋  
ビル内 六峰山岳会・佐藤勝子」へ送金されたい。

エベレスト南西壁—英国隊初登頂の記録  
クリス・ボニントン/大浦暁生・平林克敏 訳  
4月23日 4,800 円  
エベレストへの最難ルートとして、世界のアル  
ピニストたちがしのぎをけずっていた「南西壁」

がついに征服された—1975年9月、頂上へそそり立つ3,000メートルの大岩壁を、ベースキャンプからわずか33日間で登頂に成功したポニントン隊の記録。

イスラーム世界のふたつの割礼 (茗溪堂扱)  
法大探検部・早大探検部 500円 52年

マナスル1974 日本女性マナスル登山隊報告書  
B5判 カラー白黒写真40P. 本文260P.  
3,400円 茗溪堂 52年  
女性の可能性を追求した山好きのグループによるマナスル登頂の報告書。

狩猟と遊牧の世界 梅棹忠夫 51年6月  
講談社学術文庫 260円  
アフロ・ユーラシア大陸の各地での研究を平易にまとめたもので、乾燥地帯に生活する狩猟と遊牧民の社会に焦点をさだめその起源をさぐるというもの。

ヒマラヤ診療その日その日 新教出版社  
伊藤邦幸/伊藤聡美 1974年10月  
東ネパールの山村オカルドゥンガの診療所で働いた伊藤医師一家の実践記録。

死の谷をすぎて・クワイ河収容所 音羽書房  
アーネスト・ゴードン 斉藤和明訳 1,600円  
ビルマ南部、クワイ河流域の収容所で泰緬鉄道敷設工事の強制労働を強いられた俘虜たちの記録。

続・心の記 南インドの旅から(1975)  
高地ユーラシア研究会 木村喜代志 非売品  
1975年に出版したキシュトワール・ヒマール紀行「心の記」の続編である。南インドの人と街について著者の印象をまとめたもの。B6判 38P.  
〒997 鶴岡市新海町30-32 木村喜代志

ヒマラヤ遠征記 西堀栄三郎博士記念講演要旨  
ホウトク電子工業刊 昭50年9月 非売品  
B6判 94ページ  
旭川市南5条23丁目1975 ホウトク電子工業  
講演をまとめたもので、ヒマラヤ遠征のいきさつなどがあって面白い。

## シェルパの履歴書

シェルパの履歴書は300部限定で出版し、特に会員用として第2版も合本にしたものを作製しました。残部は僅収ですので早目に申し込み下さい。2,400円。HAJ名古屋事務所へ。

### \*主な内容

これまでHAJが出版したシェルパリスト第1版、第2版の内容を大幅に改訂し、最近の資料も盛り込んでまとめた。シェルパを知るには有用である。顔写真もできるだけ載せ、登山経験はもちろん、各隊による評価も加えられている。198頁。

また、一部ではあるがインドのシェルパ(ハイポーター)についても100名近く載せてある。

「シェルパの履歴書」(HAJ発行)

— お便りの一部

栗林一路 様 (青山学院大山岳部OB)  
資料集めから編集まで、たいへんご苦労があったことと思います。これから彼らを利用する人々にとって役立つであろうことは疑いの余地がありません。最近のシェルパはカトマンドゥに住みついて町の生活のほうに身についてきたようです。

また、サーダーは自分のコントロールできるのばかり連れてきますので、このあたりの交渉もむづかしいことです。(後略)

薬師義美 様 (京都府長岡市)

これまでの第1版、第2版とも非常に役に立ち感謝しておりましたが、これが決定版ということでしょう。これからも利用させていただきます。いつも貴会の刊行物に教えられ有難く思っています。「中央アジア・シルクロード」も期待しております。

八木原圏明 様 (前橋市1975年ダウラ隊)  
大きな労作と存じます。ありがとうございます。これが最終版と思いますが、これからも気をついた点をご連絡させていただきます。

Mr. Martin Lutterjohann (西ドイツ)  
(Addreestr. 6, 8000 Munchen 19)

トニー・ヒベラーの手伝いで「登山事典」(仮題)を編集中心ですが、貴会の「シェルパの履歴書」は大変有用です。ヒベラーもきっと喜ぶと思います。

## HAJ 在庫資料

- ◆ヒマラヤの桃源境 沖允人 編著  
ブータン、アッサム、シッキムの紀行。写真を豊富に使い現地旅行事情などを解説した。  
B5/2,200円/130P/1975・9/日本ヒマラヤ協会
- ◆秘境小チベット・ラダック 空昌昭ほか編著  
チベット文化を残す数少ない地、ラダックの人、自然、ラマ教文化のルポ。地図3葉つき。  
B5/2,400円/132P/1975・8/日本ヒマラヤ協会
- ◆カンジェラルワ初登頂 渡辺文仁・阿部淳 編  
カンジロバに遠征した1973年HAJ隊の公式報告。カットや概念図も豊富。登山史も貴重。  
B5/2,000円/173P/1976・10/日本ヒマラヤ協会
- ◆ヒマラヤをめざした越中人たち 橋本広著  
富山県を中心としてヒマラヤへむかった人たちをエピソードをまじえながら纏めた好読物  
B6/1,600円/205P/1976・4/(サイン入り)窓出版会
- ◆カシミールとラダック 久保幸治ほか編著  
ハラムク峰とタジワス峰試登記。ラダック紀行。インドのインナー・ラインの解説が貴重  
B5/900円/50P/1975・3/名城大学山岳部
- ◆カシミールの街と山  
カシミールの旅行やトレッキング案内をスリナガルを中心にまとめたハンディなガイド  
B6/600円/66P/1975・5/日本ヒマラヤ協会
- ◆ヒマラヤを歩き、そして登るために 加賀他編  
パネル討議・高処登山の問題/インドヒマラヤの登山・通関、高処ポーター、現地事情等  
B5/2,400円/200P/1975・11/日本ヒマラヤ協会
- ◆ネパールへの旅 佐々木正ほか編  
ネパールを訪れるためのガイド、カトマンズとその周辺の観光地や名勝地を要領よく解説  
B6/600円/65P/1975・11/日本ヒマラヤ協会
- ◆インドヒマラヤのすべて 伊東満ほか編  
インド登山手続、インドヒマラヤ解説、アッサム地方の研究、シッキム研究、登山年表等  
B5/2,400円/160P/1976・11/日本ヒマラヤ協会
- ◆東海山岳第2号 原真ほか編  
1965年ごろの国内主要登攀記録、アフガニスタン山、中央カフカスの山、ヒマラヤの気象  
B5/800円/92P/1965・4/ JAC 東海支部
- ◆東海山岳第3号 浅見正夫ほか編  
アイガー北壁、マカルー南東稜、アコンカグア南壁の記録、ヒマラヤ登山へのアドバイス等  
A5/2,500円/316P/1975・7/ JAC 東海支部
- ◆東海山岳第4号 沖允人 編  
カラコルム・ラトック遠征記録、パミール紀行、支部15年のあゆみ、組織論、高所順化  
A5/2,500円/430P/1977・2/ JAC 東海支部
- ◆HAJインドヒマラヤ遠征帰国報告書 稲田他編  
カシミールのヌン峰、ガルワル、リシパハール峰などの遠征記録とインドヒマラヤ概説  
B5/600円/ 38 P/ 1976 /日本ヒマラヤ協会
- ◆月刊誌「ヒマラヤ」・毎月1日発行  
ヒマラヤ情報、シルクロード紀行、登山記、案内、文献紹介、ツアー紹介、ヒマラヤ学入門  
B5/500円(年間4,000円)/約20P/日本ヒマラヤ協会
- ◆バダクジャンからヌーリストアンへ 佐藤優編  
アフガニスタン北奥の山で登山と高山蝶の研究をしたHAJ 1976年隊の公式報告。写真多数  
B5/2,200円/160P/1977・3/日本ヒマラヤ協会
- ◆歴史と沙漠の国と山 井上晃編  
トルコ、イラン、インドと車でシルクロードを走り、各国の山を登ったユニークな記録  
B5/1,500円/150P/1976・5/富山県連シルクロード隊
- ◆シュルパの履歴書 山下政一他編  
シュルパの顔写真、登山歴、評価などをリストアップした。インドのハイポーターも含む  
B5/2,400円/198P/1977・3/日本ヒマラヤ協会
- ◆中央アジア・シルクロード(ガイド)  
ソ連領、中国領中央アジア、ラダック、パキスタン、現代のシルクロードなど、写真多数  
B6/1,600円/160P/1977・6/日本ヒマラヤ協会
- \*\*\*\*\*
- 以下は僅少部在庫です。ハガキで問合せ下さい。申込多数の場合は抽選で決め、連絡します。代価はいずれも送料を含みます。7月10日受付メ切。
- ◆チベットとラダック (HAJ 1,000円)
- ◆東海山岳第1号 (JAC 東海支部 1,500円)
- ◆ティロット谷 (東京電機大 1,200円 汚あり)
- ◆パンジャブヒマラヤ (滋賀岳連隊 800円)
- ◆ブタヒウンチュリ 7,246米 (名古屋YMCA 1,000円)
- ◆海外登山研究会資料 I~IV (JAC 東海支部 6,000円)

- ◆草の道・石の道・氷の道(ネパール・ヒマラヤ踏査報告1974)(角田不二 800円)
  - ◆パンジャブヒマラヤ 南部隊 450円
  - ◆地図C-6(アフガン、パミールなど) 1/100万(1,000円)
  - " C-7(カシミール、チベットなど) " ( " )
  - " H-9(ガルワル、ネパールなど) " ( " )
  - " H-7A(イラン中央部) 1/50万(800円)
  - " ネパール全図(3枚つづき・青焼)約1/50万 Survey of India 発行 (1,500円)
  - " Minapin(NWカラコルム) 1/5万(1,800円)
  - ◆Expedition I(HAJ 2,000円)
  - ◆第2回東北ヒマラヤ研究会報告(HAJ 1,100円)
  - ◆カシミールの山・1971(HAJ 600円)
  - ◆Beautiful Valleys of Kashmir and Ladakh(英文)(800円)
  - ◆Ladakh-The Moonland(英文)(2,000円)
  - ◆西藏語読本 河口慧海
  - 西藏語文典 " } 一括
  - 西藏文法 寺本婉雅 } 28,000円
  - 西藏文典綱要 }
  - ◆ダウラヒマール遠征1965(愛知岳連) 2,500円
  - ◆トレッキング・マップ(ネパール発行リコピー)
  - JOMSOM TO JUMLA(350円)
  - GOSAINKUND HELAMBU LANTANG(350円)
  - LAMSANGO TO Mt.EVEREST(350円)
  - ◆シンボジウム・ネパール・1974年(日ネ協会 1,500円)
  - ◆プリアンサール(京都カラコルムクラブ 1,200円)
  - ◆山の魅力(内田嘉弘 900円)
  - ◆インドヒマラヤ登山手続(労山 2,000円)
  - ◆チベット・ラダック研究(HAJ 1,000円)
  - ◆インドヒマラヤトレッキング(AIR INDIA 100円)
  - ◆「ヒマラヤ通信」(「ヒマラヤ」の前身の小冊子です)(1、2、4、7、9、10、11、14、17、18あり。各号50円)
  - ◆「ヒマラヤ」第20~第67号(27、36、37、38、39、42、47、55は除く。各号200円)
- 注文は先着順に受付。通信での申込は代金を添えて下さい。
- 〒468 名古屋市天白区一つ山1-44-7  
HAJ 名古屋事務所 郵便振替 名古屋21645番  
銀行振込 東海銀行鳴子支店185-338番「日本ヒマラヤ協会」  
郵便振替振込用紙はどこの郵便局にもあります。  
送金料も安くて便利ですのでご利用下さい。

- 若干のHAJ出版物は下記の店で扱ってもらっています。親切にサービスしていただける店です。
- 京都…下京区四条河原町東81  
    海南堂(四条河原町電停角)
  - 兵庫…宝塚市中州1丁目15-2 逆瀬川ビル内  
    大野屋書店
  - 神戸…東灘区魚崎北町1-6-10  
    トモミツ縫工
  - 東京…千代田区神田駿河台2-1  
    茗溪堂(お茶の水駅前)
  - 東京…江戸川区西小岩5-18-10  
    小林静生書店(古書もあり)
  - 東京…文京区湯島1-6-1 利根川商事(株)  
    さくらビル内 日本山岳会
  - 東京…千代田区神田小川町3-14 第1萬水ビル2F  
    地方・小出版流通センター
  - 横浜…鶴見区鶴見町3601(豊岡通り)  
    西田書店(古書もあり)
  - 名古屋…昭和区単人町3-13(杵中)  
    山中書店
  - 札幌…中央区南3条西3丁目4番街  
    成美堂(札幌駅前通り)
  - 広島…広島市本通1-7(金座街)  
    アカデミー書店
  - 福岡…西区片江1560-22(九大前)  
    やまだ村書店

## 新刊紹介

マナスル1974 茗溪堂 3,400円

カラー16ページ、白黒24ページ、本文260ページの大冊である。紆余曲折の末、実現した日本女性マナスル登山隊の公式報告書である。研究、調査も集録されていて貴重である。

混成パーティであったということも原因して、いろいろと問題もあったと聞けるが、こうして立派な報告書を読んでもみると、やはり、歴史に残る優秀な隊であったと思う。それにしても編集の中心だった内田昌子氏の努力には頭が下る。

なお、本隊のうち森美枝子、内田昌子両氏は、HAJ会員である。

西ネパールの第3の峰 中日新聞本社 3,200円  
西ネパールの幻の山といわれるジェティポフラニ峰を試登した名古屋大学隊の公式報告書。160P。

## ヒマラヤ関係資料の入手方法 — その2

稲田定重

### 3. 資料の所在と入手

それでは検索した資料は一体どこに存在しているのだろうか。現に市販されているものなら専ら資金的問題だけで、幾らでも簡単に入手できる。しかし、いわゆる「古書」の部類に入る資料は市販されてはいず、書店に注文しても入手できない。単に閲覧で間に合うものなら、国会図書館をはじめ、著名な公共図書館、JACルーム等でかなり間に合うものである。しかし、必要と思う時にひろげるとなれば手元に置かねばならず、また、苦勞して求めたものには自から愛着も湧き活用するものであるので、利用頻度の高いものは入手したい。

40数年ヒマラヤ登山の歴史しか有していない我が国ではあるが、ヒマラヤの資料は意外と豊富に招来され、また創り出されている。そのシンボルは、今は国会図書館に納まっている故深田久弥氏の「九山文庫」であるが、いわゆる古書業界に出まわる資料でも熱意をもって集めれば勉強にはそんなに不自由はしないだろう。

#### (1) 古書店からの入手

古書店といえば神田の古本街を誰でも思い浮べるが、ちょっとした街ならたいてい古書店の1、2軒はあるものである。全国の古書店の所在を知るには「古書店地図帳—全国版」(古書通信社)が便利で、それぞれ主要取扱い書見が記されている。意外と「山岳書」を看板にしている店は少ないが、歴史、地史、人文、社会科学などと記している店は関連して山岳書も多少は扱っていると見てよいだろう。HAJ会員である小林静生氏の経営する「小林書店」—東京・西小岩—なども屈指の山岳書を扱っている店で、一度相談されるとよいだろう。

#### イ、探求書のリストアップ —古書店とのつきあい—

古書店から入手するには幾つかのテクニックがあるが、いずれにしろ入手希望書のリストアップがまず必要である。「探書リスト」と称するものを作って、入手したものを消去し、新たに必要となったものは書き加えて行く。私はかつて千点以上のリストをつくり、なるべく短期間に収集すべく全国のめばしい古書店に配布したところ、一度にどっと返事が舞い込み、当然資金量には限界があるのでその多くを断わったところ、次からは反応がなくなりかえって苦勞したものである。また消去するものも定期的に連絡しなければならぬという手間もあり、どうもこの方法はいただけないようである。結局は特定の少数の店にしばっておつきあいを続けているが、資金に余裕のない者にはこの方が順当なようで、店のだんだんともつながりできて本気になって探してくれるようである。特に資料がある程度水準にまで蓄積されてくると必然的に求める資料も入手しにくいものだけになってくる。どうしても古書店とのヒューマンなつき合いが必要になってくる。

#### ロ、探書と執念

山行や出張のついでに立寄った町の古書店で思わぬ掘出し物をしたという自慢話はよく聞く。つい先日にも会員の某氏は1万円以上もする川喜田二郎「チベット人」をわずか700円といううそみたいな値で求めたと鼻高々であった。私もこんな経験が幾度かあるが、つまるところ資料探索は一種の“執念”がなければ続かない。執念をもって求める者にヒマラヤの神はほほえむようである。地方の小書店などとばかりしては神から見離される。掘出物はむしろ地方や場末の書店、ヒマラヤではないが“辺境”にあるもので、大都会の古本街や著名な古書店にはごく少なく、価格もあらまし統一されている。

地方にいると古書店めぐりの機会は少ないので、始めからあきらめている向きもあるが、私は地方にいる程集まると考えている。逆境は人をきたえるというではないか……。 (つづく)

**東京集会報告** 4月8日 於：トラベル日本

出席者 片岡邦夫、会田雅英、阿部秀子、  
遠矢孝行、小林英見、戸田直樹、戸田好子、  
植竹清孝、大木場守、亀井建樹、紺野栄一、  
山森欣一、藤江幾太郎（敬称略）

内容要旨

◇チャングバン峰登攀

会田氏からチャングバン登攀の様子がスライドによって説明された。特に岩壁部分の登攀の詳細が参加者の興味を引いた様子。終って高度障害や、登攀技術等に質問が相次いだ。

◇ネパール人との合同登山

会田氏が昨年ポストにネパール人だけによるヒマラヤ登山としてダウラヒマルのツクチェピーク隊の技術指導を行なった様子を現地の状況などを混えて話された。

合同登山の可能性（今後）や、ネパール人による登山の可能性に話が集中した。

又、藤江氏がその体験から下痢等病気に對する対策の苦心談等話をされ、時間の過ぎるのも忘れて話しに花が咲いていた。（山森 記）

**岐阜集会報告** 4月9日・岐阜市南市民会館

1976年カラコルムのガッシュブルムⅡ峰（8,035m）に遠征した登攀倶楽部・岐阜の青木寿隊長、木村智、曾我隊員をむかえて、すばらしいスライドとともに、カラコルムの現地事情も説明（別項参照）

出席者 青木寿、木村智、曾我、沖允人、岩水竜峰、山下政一、小野島清高、関谷勉、山口秀美、佐々木弘之、須賀玄郷、高木基揚、山田正弘、瀧上弘子、中村好江、榊井照和（敬称略）

カラコルム現地事情—人件費の高騰など

「ヒマラヤ」5月号は「パキスタン特集」として発行したが、記事の中のポーター代などは1975年以前の料金が記されていたものが多い。ところが、1976年にパキスタン政府はポーター代の値上げを含む登山規則の変更を行なった。詳しいことはパキスタン大使館などで資料を入手されたいが中でも、登山隊現地支出の大半をしめるポーター代が異常に高くなっている。しかも、すべての交渉はリエゾンオフィサーを通じて行なわれるので値引き交渉もままならない。

ポーター代は食事なしで67～85Rp/日。（約、2,000円から2,600円）しかも1週間に1回の休みを入れ、その日も20Rp支払う、などと1975年頃の倍以上になっている。ジープは1マイル当り、12Rp それに帰り賃を1マイル当り6Rp 支払わねばならなくなった。トラックターは15Rp/マイル、帰りの運賃をリターン（One Way Empty Return）と称して要求されるのはポーターについても例外ではない。

今後、諸物価の値上りと合せて、カラコルム登山は高価な遠征になりそうである。（〇）

**名古屋集会報告** 5月27日・エアインディア

ラダック最近の話題として増田さんの8%映画を見ながら話し合った。「ラダックのオープンエリアはレーとその周辺で、ウブシから南の道路は特別許可取得が必須条件であり、また、レーの北側へは入れない。ポーター代は1日60～80Rp（約2,400円～3,200円）と高くなっている。レーのホテルも1泊2食つき200Rp（8,000円）もするなど、一般に物価や人件費が倍以上になっている」というようなニュースであった。

終りに、昨年のHAJの三重県・御池岳登山と今年3月の雪の木曾駒ヶ岳山行の2つの登山記録8%映画が付録として上映され、出演者（？）一同大喜びであった。

また、パキスタン、ギルギットからのお客さんMt. Samiul Haobul が出席され、ギルギット情報、特にカラコルムハイウェーの事情について説明があった。当分の間、〒522 彦根市芹橋2-3-31 督永進方（HAJ会員）に滞在される由。

出席者 榊井照和、豊田好子、小川務、須賀玄郷、近藤孝男、岩水竜峰、上田竹三、水野治朗、中村好江、サミウル・ハウバル、浅倉義勝、瀧上弘子、佐々木弘之、竹中（CBC）、三浦、林、沖。

なお、次回は7月8日（金）岐阜県穂積町（ホズミ）の佐々木弘之さん宅 ☎ 05832-7-0540 でおこないます。分りにくいところですので、国鉄穂積駅（岐阜と大垣の間）に下車し、電話をして下さればむかえに行きます。18時～18時30の間においで下さい。車がHAJの旗をつけて駅前待っています。7月8日夜から7月10日にかけて、双六岳、笠ヶ岳へ登山に行きます。費用実費。

## 日本からヒマラヤから

立命館大ガルワールヒマラヤ遠征隊様 (パンワリドワール・6,663m 1977) 4月14日

私どもの遠征に関しましてはご援助、ご支援下さりましてありがとうございました。出発の日もせまり一同張切っております。(後略)

同 4月17日

デリーに到着し、酷熱の中であいさつまわり、通関などと走りまわっております。4月20日にデリーを出発し山へむかいます。  
(隊長：福力仁志、隊員：西村寛、中江啓介、山口雅功、笹本義裕、乃村昌広、

広島山岳会バルナジ峰登山隊様 4月25日

先発隊として昨年の偵察にひきつづきデリーにきています。隊荷を別送で送っての無税通関をこころみていますが、インド政府のむつかしさというか、ルーズさにはかなり参っています。(名越実)

浜口徹様 名古屋 4月20日

4月26日からラダックへ行きます。スリナガルではテントで生活したいと思っています。(HAJ キャンプサイトがチシマツェイの丘にあり無料ですのでご利用下さい。HAJ)

長崎県・トリスル西壁遠征隊1977様 4月10日

4月下旬からトリスルにむかいます。トリスルに西壁から登る予定です。隊長 田中道太郎、隊員 泉有輝信、遠藤康治(以上HAJ)他、事務局長崎市滑石2丁目19-9 勝山良三方

石川真智子様 広島市 5月2日

1 昨年のザスカールの記録をまとめつつあります。1978年にはもう一度行ってみたいと考えております。5,000m位のトレッキングを考えています。ザスカールに入られた方は是非情報をお聞かせ下さい。

督永匡子様 彦根市 5月3日

日本で少林拳法を習うということで、今、私

のところにパキスタン人が来ています。ギルギットのワッシュ・グームというホテルの息子で、彼の父親はビンディ・ギルギット間のトランスポートをやったり、ワルジス・ツーリスト・インの経営もやっている人です。(後略)

家永泰光様 茨城県 4月7日

「食料の国際開発」を明文書房から出版しました。インドパンジャブの農村のことも含まれています。(家永さんは熱帯農業研究センターにお勤めで、その方面の専門家です。HAJ)

◆マナスル登頂20周年記念パーティ開催さる◆◆

5月9日、東京のホテル・グランドパレスで日本山岳会、ヒマラヤンクラブ共催で開かれた。

◆◆ K<sub>2</sub>登山隊歓送会開催さる ◆◆◆◆◆◆

4月23日、楢有恒他の発起人により、日本山岳協会K<sub>2</sub>隊の歓送会が開かれ、40名の隊員を激励し壮途を祝した。事務局は、東京都新宿区袋町25-30 鶴ハイム神楽坂内 K<sub>2</sub>登山隊

◆ 名古屋溪稜会イストル・オ・ナールへ ◆◆

5月8日壮行会がおこなわれ、この7月、イストル・オ・ナールにむかう。連絡先はHAJ会員の鈴木常夫さん方。

◆ 藤江幾太郎・丹沢展 ◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

時・7月4日～31日

所・丹沢山麓大倉『ロジ峠』

丹沢を描いた油絵作品10点(昭和18年～40年作50号～8号)を展示いたします。大倉根尾取付点脇です。是非お立寄り下さい。(小田急渋沢下車バス大倉終点から10分)

◆ 第9回 藤江幾太郎 油絵新作展 ◆◆◆◆◆◆

時・6月24日(金)～29日(水)

所・新宿・小田急本館7F美術サロン

大雪、八甲田、剣、尾瀬、他東京周辺で取材の山の絵25点(50～3号)を、他にネパール作品

## 農林省 熱帯農業研究センター

本所 〒114 東京都北区西ヶ原 2-2-1

筑波研究施設 〒300-21 茨城県筑波郡谷田部町北中妻 ☎02975-4-5111

### 熱帯農業研究の必要性

熱帯や亜熱帯地域は広い土地、豊かな太陽エネルギーと降雨に恵まれ、高い農業生産をあげることができるはずなのですが、これらの地域の発展途上国ではまだ昔のままの古い農法が行われているところが多く、その農業生産は低い状態にとどまっているので食糧生産もなかなか伸びず、しかも急速に人口は増加しており、食糧は不足するという共通の問題点を抱えています。従って、各国とも経済の自立と食糧の自給という意欲に燃え、その基本となる農業を発展させようと真剣に努力していますが、その体制はまだ十分でなく、農業技術も低い水準のままになっています。

これらの諸国がアジアの先進国である日本に寄せる期待は大きく、わが国に対する農業技術協力の要請も年々増加し、その対策もさまざまな分野にまでわたっています。わが国としてもこれらの地域における農業技術の発展に貢献することは先進国の一員として果たすべき重要な国際的役割であり、また天然資源の大半を海外に依存しているわが国が負うべき当然の責務でもありましょう。

発展途上国が自力で経済や農業問題を解決しようとする場合、最も必要とされるものの一つは技術者の養成と研究成果を蓄積することであり、それに対する国際協力が強く望まれております。

一方、戦前戦後のわが国の農業技術研究は、専ら国内の諸問題を解決することに主眼がおかれてきましたが、世界の食糧事情が窮迫しつつある現在、農業技術研究も今となってはわが国の殻の中にだけ閉じこもってばかりいることは許されない状態となりました。だから世界の食糧事情を好転させるためにも、研究推進の場を積極的に海外に求め、国際的な研究交流をはかり、農業技術研究の水準を世界的な規模で向上させる必要があります。この国際的な農業技術研究の成果はわが国の農業技術も発展させることにもなるでしょう。

このような背景のもとに熱帯農業研究センターが農林省の研究機関の一つとして設立されました。

### 熱帯農業研究センターのおいたち

昭和41年 農林省農林水産技術会議事務局内に熱帯農業技術研究業務室を設け、在外研究員の派遣・海外調査・資料広報活動を開始

昭和42年 熱帯農業研究管理室となり、上記の活動のほかに熱帯農業研究国際シンポジウムや外国の研究管理者招へいを開始

昭和45年 熱帯農業研究センターが設立され、農林省の研究機関の一つとして発足。同時に石垣市に沖縄支所の建設に着工

昭和47年 筑波研究学園都市に研究施設の建設に着工

昭和50年 筑波研究施設の研究本館と付属施設の大部分を完成。沖縄支所完成

### 熱帯農業研究センターの組織と業務

|    |          |    |
|----|----------|----|
| 所長 | 庶務課      | 6名 |
|    | 会計課      | 8  |
|    | 企画調査室    | 5  |
|    | 研究第一部    | 42 |
|    | 研究第二部    | 10 |
|    | 総合研究官    | 1  |
|    | 沖縄支所     | 21 |
|    | (定員 94名) |    |

### 企画調査室

熱帯や亜熱帯地域の発展途上国の農業の動向や農業技術の実態、農業開発上の諸問題、国内の研究の要望などを検討のうえ、在外研究員を派遣する計画の立案、外国または国内の関係機関との連絡、調整、資料の収集、広報活動、国際シンポジウムの開催、海外調査などを担当実施しています。

### 研究第一部

相手国政府や試験研究機関との相互の合意のもとに在外研究員を派遣し、これらの機関と共同研究を行っています。研究課題は相手国政府にとっても、わが国にとっても重要と思われる課題をとりあげ、受け入れ側との合意のもとに決定されます。また、任期を終了して帰国した研究員はセンターの施設を利用するほか、必要な場合には国内

の関係試験研究機関との共同研究を通じて研究を  
発展させます。

具体的には熱帯における作物の育種・栽培・生  
理・生態や土壌と地力維持など、後に述べる研究  
活動の全分野にわたって技術の開発に必要な個別  
的研究を行っています。

## 研究第二部

研究第一部で得られた研究成果などを基に実際  
の営農に必要な技術体系の組立て、農業開発事業  
などを前提とした総合的な研究を行っています。  
また、わが国の技術協力の実施機関である国際協  
力事業団とも緊密な連絡をとりながら、技術的情  
報の提供や専門的な助言などによる協力を計画し  
ています。

## 総合研究官

多分野にわたって研究員が多数派遣されている  
国(タイ)に駐在し、熱研センターの代表として  
当該国での試験研究および調査についての連絡調  
整と指導を行っています。

## 熱帯農業研究センターの活動

### 1. 熱帯・亜熱帯地域における研究

主として東南アジアの熱帯・亜熱帯地域に長期  
または短期(3~6ヶ月)の在外研究員を派遣し、  
現地の試験研究機関(大学・試験場など)で共同  
研究をしています。研究の対象は水田作・畑作・  
畜産・家畜衛生・果樹・土壌肥料・病虫害・農業  
土木・農業機械・蚕糸・林業・農業経営・食品加  
工・農業気象など、水産を除く広範囲の分野にわ  
たっています。現在、これらの分野の研究員が、  
インド・インドネシア・スリランカ・タイ・フィ  
リピン・マレーシア・ブラジル・コロンビアに派  
遣されており、また、国際稲研究所(IRRI、フィ  
リピン)・国際熱帯農業研究所(CIAT、コロンビ  
ア)などの国際研究機関の中でも共同研究を行っ  
ています。現在、毎年約40名(併任者を含む)が  
長期在外研究員として現地で活躍しています。

これまでに実施してきている主な研究課題は次  
のとおりです。

#### 1) 水田作

米は世界の最も大切な食糧資源の一つであり、  
水田作はアジアの農業の中心です。このため、水  
田作には特に力を注いでいます。①インド型水稲  
の遺伝と育種(タイ・マレーシア・フィリピン)、

②インド型水稲の栽培と生理生態(タイ・マレー  
シア・スリランカ・フィリピン)、③熱帯条件下  
における水田の高度利用(タイ)。

#### 2) 畑作

陸稲・トウモロコシ・ソルガムなどの穀類、ダ  
イズ・アブラヤシなどの油料作物、キャッサバな  
どのでん粉作物など、熱帯・亜熱帯での畑作物の  
生産を安定し拡大することは世界の食糧資源確保  
のために重要な問題になっています。①トウモロ  
コシ・ソルガムの育種と栽培(フィリピン・イン  
ドネシア)、②アブラヤシ園の土壌(マレーシア)  
③キャッサバの育種と栽培(コロンビア)、④陸  
稲の栽培生理(ブラジル)

#### 3) 地力維持・施肥

熱帯ではきびしい自然条件のため地力の消耗が  
激しいので、この土壌の肥沃度の維持や増進につ  
いての技術開発は熱帯農業、特に畑作にきわめて  
重要です。センターでは地力維持と施肥の研究を  
主にタイで重点的に行っています。①熱帯土壌の  
生成・分類・分布、②熱帯土壌の化学的・物理的  
性質と土壌微生物、③熱帯条件下における地力維  
持と施肥法

#### 4) 病虫害・有害動物

①イネ白葉枯病・トウモロコシべと病など主要  
病害の発生生態と防除(タイ・スリランカ・イン  
ドネシア・フィリピン)、②イネノシトメタマ  
バエ、ウンカ・ヨコバイ類、アブラヤシのイラガ  
類など主要害虫の発生生態と防除(タイ・スリラ  
ンカ・マレーシア)、③土壌線虫の分布と生態(  
ブラジル)、④畑・水田のネズミの生態と防除(  
タイ)

#### 5) 農業土木・農業機械

①かんがい・排水など水田基盤整備の基礎研究  
(マレーシア・スリランカ)、②海岸侵食防止に  
関する研究(マレーシア)、③熱帯の条件に適し  
た田植機・収穫機の開発改良と農作業の合理化(  
マレーシア)

#### 6) 草地・畜産・家畜衛生

①熱帯での牧草の選択と草地の改良(タイ)、  
②肉牛など家畜の産肉性能(スリランカ)、③牛  
の口蹄疫の診断・ワクチンの開発(タイ)

#### 7) 林業

わが国は世界でも有数な木材輸入国であり、輸  
出先国では伐採跡地の造林経強い関心をもって

ます。しかし、その基礎となる試験研究が遅れているので、林業については特に研究を強化しています。①原生林伐採跡のラワンなど有用樹種の天然更新(マレーシア)、②伐採跡の早成樹種などの人工更新(フィリピン)

#### 8) 農業生産技術体系

①熱帯アジアで水稲二期作化率が最も進んでいる西マレーシアの北西部地域を対象に、一部機械化を組入れた稲作技術体系の組立てと、その進展に必要な末端は場のかん排水、道路など基盤整備方式の解明、②ブラジル中央部に広大に広がっている強酸性土壌の疎林地帯(セラードと称する)を対象に、大規模機械化畑作技術体系の組立てとその経営経済的評価

#### 9) その他

食品加工(インド)、農業経営(インド・マレーシア)、農業気象(スリランカ)、果樹(タイ)なども研究を行ってきました。

### 2. 海外調査

専門分野別に各国の研究事情や在外研究員を派遣する場合の研究課題・生活環境などについて調査を行うとともに、相手国の関係者とも意見を交換し、研究上の問題点や方向を検討しています。

### 3. 沖縄支所における研究

沖縄支所は沖縄県の石垣島にあります。支所では沖縄県に限らず広く亜熱帯地域の農業技術について、各研究室で分担して次の研究を行っています。

- 第1研究室 熱帯・亜熱帯・温帯間の作物導入順化に関する研究
- 第2研究室 亜熱帯における作物病害虫の防除法に関する研究
- 第3研究室 亜熱帯条件下における地力維持増進に関する研究
- 第4研究室 有用作物の育種に関する基礎的研究

### 4. 研究の国際交流

#### 1) 国際シンポジウムの開催

毎年1回、熱帯と亜熱帯地域に共通する重要な農業研究や技術上の課題をとりあげ、東南アジア諸国から研究者を招いて国際シンポジウムを行っています。現在までに9回開催しました。昭和50年は水田の水管理に関する国際シンポジウムを行い、昭和51年は熱帯作物のウイルス病に関するシ

ンポジウムを9月に予定しています。

#### 2) 外国の研究管理者招へい

熱帯や亜熱帯諸国から研究管理者を招いて、わが国の研究機関や農業の実情を紹介し、共同研究を円滑に進めるための意見の交換を行っています。

#### 3) 外国の研究員招へい

センターの在外研究員と共同研究を行った相手国の研究員をわが国に招き、設備などの関係で現地ではできなかった研究の分野を補うため、国内の研究機関でさらに研究を深めています。

### 5. 情報・資料の収集および委託調査研究

熱帯や亜熱帯の農業に関係のある内外の資料や文献を収集管理しています。また、センターが直接実施することができないが必要な調査研究を委託しています。

### 6. 刊行物

- ①JARQ(Japan Agricultural Research Quarterly、英文、日本の農業技術を海外に紹介)
- ②TARC Notes(英文、研究成果の速報)、
- ③Tropical Agricultural Research Series(英文、国際シンポジウム論文集)、④Technical Bulletin(英文、研究報告)、⑤熱帯農研集報(和文、海外の農業・研究情報を国内に紹介)、⑥熱研資料(和文、調査資料など)、⑦熱帯農業技術叢書(和文、委託調査研究の成果など)

### ミニ・ニュース

#### その2

長井山岳会・ツクチェ・ピーク(6,920m)へ  
1978年ポストモンスーンにネパールのツクチェピークへ遠征が決定した。

釜石山岳会・キアール氷河へ(キシュトワール)  
インドの知られざる地の一つであるキシュトワールのキアール氷河へこの8月~10月にかけて入域する。諏訪木秀夫、佐藤成生、伊藤進の3氏。

『愛と怒りと悟り』写真展 京都で開催  
インド・ビルマ・チベットの古寺の壁画を中心にしたユニークな写真展。井上隆雄(HAJ)氏ほか2氏。大丸京都店 6月9日~14日。



書評

## 民族探検の旅 第3集 インド・ヒマラヤ

学習研究社 昭51年11月25日 ¥1,500

同第4集アジア北部・西部 昭52年2月10日

旅はさまざまな魅力を持っている。「独断の楽しみ」もそのひとつだが、これは国外旅行でかなり確度が高い説だ。その場合、独断の基準は日本人ならば、日本文化だ。拡大解釈をすると国外旅行中の人は残らず、比較文化研究を実践中となる。旅行記は実践報告書にあたるが、近ごろ出版中のものでは以下2冊にその傾向が強い。

「ひとり旅の楽しみ、高坂知英、中公新書、昭51年11月15日¥460」、中公新書らしい「旅」だ。

「河童が覗いたヨーロッパ、妹尾河童、話の特集、昭52年2月26日¥980」、イラストと実践的メモ。

これらを読むと独断度は薄く、むしろ「独創的仮定の楽しみ」と表現したほうがびたりだ。著者らは、旅を比較文化の中での連続した知的ゲームのように仕上げている。

ところで、私達が旅行書の中でも前述2冊のような本を読むのはなぜか。思いあたるのは、自分が旅した当時の見聞をその書上で照合し、誤認でなかったことを知り、胸の内では安堵感にひたる楽しみのためだ。あるいは、自己の疑問、仮定を他人の判断によって氷解させ、修正させる楽しみでもある。だから、ある種の旅行書は、ガイドとしてよりも国外旅行の数度経験者が個々の関心(課題追求)のために購入することもある。おそらく旅の雑誌は、登山の雑誌と同様に一層、読者指向を追って分派、専門化するだろう。

そんな「目的」をもって本書「民族探検の旅」を開くと、まず、写真を見て自己経験を固定しようとする読者にとって、写真説明文が短かく、あっけない。同定のための要件を充分には成さないのである。テーマごとにつけられている総論的解説よりも、写真一葉ずつを分析した結果、書かれる説明文のほうが、民族のありようを深く語り、かつ「目的」を果せるのだ。

また、写真撮影者が本書出版以前に書いた民族紀行を読んでいたりと、今回の本書には専門学者が製作参加したのだから、写真説明についても、より詳細になっていて当然と考えたりする。長すぎでもなく短かすぎでもない適切な説明文は可能である。これによって写真は記事化され、「目で見える民族誌」の性格に接近するだろう。地球大

地や宇宙の写真解説文にある意外さ、新鮮な驚きを民族写真の解説文にも感じたい。

さて、発行の狙いからすれば一冊の中でも各民族を種々比較できるはずだが、そう簡単に行かない。民族調査研究の成果を一般人に説明するために格好の写真を選定したのではなく、時として写真集のための写真選びがあったかのように思えることもある。学者、記者、観光客といった日本人行動の幅広さ、深さによる豊かな製作材料ゆえにかえって焦点が拡散してしまったのか、あるいは、この方面の学問的成果を一般人の知性的好奇心につなげる製作技法が、日本ではまだ未成熟だからとでも言えようか。たとえば、朝日新聞社の探検と冒険全8集はその面では一歩食いたらない。しかし、ぐるーぷ・ぱあやエナジー編集部(エッソスタンド石油)が製作に関係した本は技術面でも練達している。

この本全体を眺めると、月刊総合雑誌の巻頭ページに登場するグラビアを総集した、という印象をまださっぱりとはぬぐいきれない。

しかし、以上の感想は再確認をしたいという目的を持って読んだ場合のことであって、一般的には本書シリーズにより他民族についての初歩的知識と感覚を会得、総括できるだろう。岩波や講談社、保育社などの写真文庫当時に比べて数倍の情報量を確保している。ただ、内容的に本書の守備範囲外のためか、民族の生活模様は伝えても人々の思考方法にまでは詳しくない。それに掲載の写真には、ある一地域に住む、一族の、しかもその内の特定人の特定時を、ある意図をもって撮影した、という本書ばかりでない宿命的な背景がある。ここでは悪い意味でなく、写真もウソをつくのである。

こういった本書の性格以上のものを求めたい時、民族を総合的に勉強できる最適の場所として、国立民族学博物館(大阪府天理市・今秋開館と聞く)がある。本書シリーズは将来の訪館のために、「民族学博物館、梅掉忠夫、講談社、昭51年3月10日¥1,200」とともに予習テキストの価値も持っている。この小文は、シリーズ全8集の内、標題にあげた2冊だけのものである。(ひ)

## ヒマラヤ基金の募集(案)

昭和51年4月東京における総会において全員一致のもとに15周年記念事業ならびに法人化設立準備が議決され新たなHAJが確約されました。その根底には「みんなのヒマラヤ」の再確認という重要な意味が含まれていたことを記憶されている方も多いかと存じます。その後1年が経過いたしました。15周年記念事業は着々と歩をあゆみ、「H&S」作戦として、具体的にプランニングが進み、その一環として、つい最近ヒマラヤン・ライブラリー〔8〕として「中央アジア・シルクロード」が発刊されました。序において金子民雄氏は「本書は営利を目的にした、いわゆるプロによるものでなかっただけに……〈中略〉……。私はこの本が広く読まれ、そこからさらに大きな旅のプランが発展していくことを願ってやまない。」と結んでおられる。いわゆる「みんなのヒマラヤ」の良きガイドとして、このプランの終る1981年までに、多くの人達が「彼の地」を訪れることでしょう。

もう一つの大きな議決であった法人化のことにについては、その後会長始め多くの人達の好意のもとに「設立許可申請書」が作成され、文部省国際情報課に次のような趣旨のもとに相談がもちかけられた。「……ヒマラヤは山岳ばかりでなく、人類の共通の宝としてとらえ、ヒューマンズムの基盤の上に立って各分野の専門家が調査、研究し総合的にまとめあげる必要がある。」しかし、文部省の壁は厚く、再度の交渉にも功通さず今日に至っております。しかし、文部省も我々のまじめな活動にたいし、少なからず興味を示し「ヒマラヤ学会」等の研究会の開催、「研究誌」の発刊、事務所等の不動産および資金の問題等解決されれば、実現も夢ではないことを示唆されました。そこで今後「日本ヒマラヤ協会」は、研究団体として、その夢実現に努力していきたいと思っております。さしあたって昭和53年度総会(53年10月頃)は、研究会と合せ実施し、研究誌の発刊をする計画です。

以上の経過のもとに、今後、一番大きな問題となっていく法人基金の調達につき、今から会員すべての御理解のもとに下記目標額にむかって努力致したく、去る6月4日の理事会で立案しました。詳しくは10月に開かれる総会で説明し、決定する運びとなりますが、なにとぞ基金趣旨ご諒察の上

ご協力賜りますようお願いいたします。

会長 柴田金之助

記

1. 募金目標額 4千万円  
内 訳 (1) 個人 5百万円  
(2) 特別 3千万円  
(3) 法人 5百万円
2. 募金方法  
(1) 個人の5百万円の部は、1口5千円として全会員参画のもと、1,000名を目標(最低1口以上)  
(2) 特別の3千万円の部は、1口50万円として、60名を目標。ただし、特別会員には次の特典をあたえる。  
④ 1口について同一家族(一親等)は1978年2月～1982年1月間のH&Sプランに1回1人無料参加。ただし、登山や特別なコースには追加料金を支払うことがある。  
⑤ ヒマラヤ山荘など協会施設の無料使用  
⑥ デボ装備の無料使用  
⑦ 1978年2月～1982年1月までのHAJ出版物の無料配布(「ヒマラヤ」は除く)  
(3) 法人の5百万円の部は、1口10万円として50口を目標。
3. 使い方  
(1) で集めた金は法人化基金として凍結する。  
(2) で集めた金の一部は活動資金とする。  
(3) で集めた金は法人化基金として凍結する。  
(1)、(2)、(3) で得られた、最低2千5百万円から得られる利子約160万円を、運営費(人件費)とする。
4. 募金払込期日  
(1) の場合 52年12月末日  
(2)、(3) の場合 52年12月末日までに申込みを受けつけ、53年9月までに払込む。
5. ご送金方法(下記のいずれかの方法で)

~~~~~  
理事会要旨—6月4日、静岡県寸又峽ヒュッテ  
出席者：岩水竜峰、沖允人、藤井毅、内田嘉弘、  
稲田重重、黒沢文代、山倉洋一(他は委任)  
議事 1.51年度事業報告、会計報告案の検討  
2.52年度(52.9.1～53.8.31)事業計画および予算案の検討  
3.H&Sプランおよび委員会の発足(委員：藤井、植竹、佐藤、沖、増田、西郡、清水)  
4.法人化についての経過報告・ヒマラヤ基金の設定  
5.専門研究会の発足(地図研、宗教研)  
6.遠征隊承認(カンミール(ヌン)計画承認、(カンチ計画は保留。)  
7.会則変更(第2条「事務局を東京におく」と変更、会員の事務所は名古屋事務所と従来通り)

**予告**

## ◇◇◇◇◇◇ 「ヒマラヤの彼方へ」講演と映画の会 ◇◇◇◇◇◇

インド・ヒマラヤの第一人者であるJ. シン氏(エア・インディア、登山・トレッキング部長)をむかえ、水野勉氏(中央アジア研究家)の講演もお願いし、下記のような日程で講演と映画の会を開催します。多くの皆様の参加をお願いします。

**主な内容**

講演 「インド・ヒマラヤの魅力」J. シン氏  
(資料配布・通訳つき)

講演 「シルクロードの山と人」水野 勉氏  
(東京・小山・郡山のみ)

映画 シルクロードまたはヒマラヤの映画

入場料 大人500円、学生300円、小人200円。

入場券は各地区責任者を通じて購入して下さい。HAJ名古屋に代金をそえてお申し込みいただければ郵送します。2,000円までは切手で結構です。入場券の送料はHAJで負担します。

**日 程 (A) 講演と映画の会**

- 7月24日(日) 17時00～19時30 「名銀ホール」
- 7月25日(月) 18時00～20時30「サクラ会館 大会場」
- 7月26日(火) 18時00～20時30「郡山商工会議所会館」
- 7月27日(水) 18時00～20時30「八戸商工会館」
- 7月30日(土) 14時00～16時30「帯広市勤労者福祉センター」
- 7月31日(日) 18時00～20時30「旭川市民文化会館」
- 8月1日(月) 18時00～20時30「北海道新聞社ホール」
- 8月3日(水) 18時00～20時30「日本交通協会  
大会議室」

**(B) 北海道花と山の旅**

7月28～8月1日まで上記日程を追って北海道中央部を車で旅します。

◇7月28日 苫小牧(2h/68km)→新冠ユートピア牧

場(武田牧場長より名馬“ハイセーコー”の話を書く)夜は牧場産の羊肉バーベキューの食べ放題。

宿泊:ユートピア・ロッジ

◇7月29日 新冠(3h/130km)→様似町→アポイ岳登山(登り3時間、下り2時間)→アポイ山麓アポイ岳 日高山脈のいちばん南にあるこの山(810.6m)は海霧の影響をうけるので気温が低く、高山植物のお花畑が美しく、珍しい種類も多い。頂上からはきびしい山容の南日高の山なみが遠望され、また、美しい海岸線も望まれる。

◇7月30日 アポイ山麓(1h/29km)→エリモ岬(4h/132km)→帯広(集会後)→(1.5h/50km)糠平エリモ岬から帯広へ 北海道南端にあるエリモ岬は、なだらかな丘陵がするどく海に没し、黒潮と大地の接点となっている。ここから黄金道路を走り、車窓から入る波しぶきをあび帯広へむかう。帯広から大雪山中にあるウベベ山の見る人造湖のほとり、糠平温泉に到着する。

◇7月31日 大雪高原→大雪ダム→層雲峡→(ロープウェイで黒岳往復)(3h/90km)→旭川

◇8月1日 旭川→十勝岳の望岳台→吹上温泉→十勝岳温泉(5h/230km)→札幌

札幌 北大クラーク会館で昼食後、北大低温研究所を見学(映画と説明)。北大構内、植物園など見学。18時からは北大教授の特別講演を含んだヒマラヤ集会を開催。終了後、有志でサッポロビール園でジンギスカン料理と生ビールの飲み放題で北海道最後の夜を楽しみます。8月2日は自由参加。

**費用** 実費をいただきますが、交通費、宿泊費、食費、観光費を含めて1日当り大人7,000円、子供5,000円位を考えておいて下さい。

**(C) 洋上ヒマラヤセミナー**

なお、上記の日程に合わせて下記のフェリーによる「洋上ヒマラヤセミナー」を開きます。

7月27日八戸港発22時00→苫小牧着28日09時30→  
(東日本フェリー) 合

7月26日名古屋港発18時30→仙台着27日18時00  
→苫小牧着28日10時45 流  
(太平洋沿岸フェリー)

⑧と⑨を組合わせた北海道の山旅とヒマラヤ洋上セミナー(札幌で解散)に関する費用は実費をいただきます。フェリー、宿泊などの手配は事務局でおこないます。これに参加希望の方はHAJ名古屋事務所へお問合せ下さい。



H.A.J ネパールの旅



〈略名・HILL〉

コース	期間	出発日	費用(円)	添乗員
A	8日間	12月29日	286,000	有
B	15日間	12月26日	384,000	有
C(フリー)	29日間	12月25日	212,000	なし

アンナプルナを望むこのノウダラの丘は、標高が1,450mで高山病の心配はありません。アンナプルナ山群が圧倒的な姿で間近かにせまります。青く澄み切った空と白く輝く山々、ネパールの人々の素朴な生活の一端に触れることのできる、このツアーは子供からお年寄りまで参加できます。ポカラの湖は、その湖面にアンナプルナの美しい姿を映しています。また、バザールでは珍しいチベット人の民芸品を買うことができます。

お問合せ・お申込みは

主催 (株)トラベル・ジャパン

① <日程> 8日間

(定員20名)

	都市名	時刻	交通機関	概要
1	東京 デリー	14:15 23:59	A1309	羽田より空路にてデリーへ。着後ホテルへ。
2	デリー カトマンズ	10:00 11:50	IC413	空路にてネパールの首都カトマンズへ。到着後ホテルへ。
3	カトマンズ		滞在	終日市内観光。(目玉寺や近郊の街バタン市やバドガオン市などを見学します。)
4	カトマンズ		滞在	早朝、山岳フライト(エベレストを間近に望みます。)その後自由行動。バザールにてお買物を楽しんで下さい。
5	カトマンズ			フリー
6	カトマンズ カルカッタ	10:30 11:15	RA213	フリー
7	カルカッタ	21:30		午前中自由行動、夕刻の便にて東京へ。
8	東京	12:45	A1302	通関後解散。

② <日程> 15日間

(定員20名)

	都市名	時刻	交通機関	概要
1	東京 カルカッタ	13:40 21:45	A1303	羽田より空路にて、カルカッタへ。着後ホテルへ。
2	カルカッタ カトマンズ	07:10 09:25	IC247	空路にてネパールの首都カトマンズへ。着後ホテルへ。
3	カトマンズ		滞在	終日市内観光。(目玉寺や近郊の街バタン市やバドガオン市などを見学します。)
4	カトマンズ ポカラ	8:00 17:00	バス	午前中自由行動。陸路にてポカラへ。着後ホテルへ。
5~11	ポカラ			ポカラ、バザールなどを見学します。ノウダラの丘へトレッキング。
12	ポカラ カトマンズ	8:00 17:00	バス	陸路にてカトマンズへ戻ります。
13	カトマンズ デリー	11:00 12:15	RA207	夕刻の便にてデリーへ。着後ホテルへ。
14	デリー	20:00		午前中自由行動。夜の便にて東京へ(機中泊)
15	東京	12:20	A1310	通関後解散。

③ フリー 8日間 12月29日発、15日間 12月26日発、29日間 12月25日発 各20名 添乗員 なし  
費用 212,000円 東京・カトマンズ間の航空運賃と途中の滞在費(バンコクまたはカルカッタまたはデリー)2泊分を含む。

実施最低人員20名。なお、上記の日程と費用は52年4月1日を基準とします。現地事情などで予告なく変更する場合があります。旅行条件その他については詳細なパンフレットがありますのでお問合せ下さい。

## 〰〰 AIUのトレッキング用海外旅行保険 〰〰

この保険は、トレッキングをふくむ旅行期間中のケガや病気による医療費、死亡金をお支払いいたします。ただし、ザイル、ピッケル、アイゼンなどを使用する登山行動中の事故はカバーいたしません。

保険料はタイプおよび期間で決ります。3タイプのうち1タイプをお選び下さい。申込書の「旅行目的」の欄に「Trekking」とタイプ名(A、B、C)をお書き下さい。申込書はHAJ名古屋事務所にありますので、出発前1カ月前にお問合せ下さい。

保障の内容		Aタイプ	Bタイプ	Cタイプ
傷害	死亡・後遺障害	500万円	1,000万円	2,000万円
	傷害治療実費	200万円	250万円	300万円
疾病	疾病治療実費	200万円	250万円	300万円
	疾病死亡	500万円	500万円	500万円

なお、保険期間の数え方としては、初日は算入しません。たとえば11月10日から11月24日までの旅行ですと、保険期間は14日間。また、普通の観光などを目的とした海外旅行のための保険も扱っています。保険料は上記の約1/3になっています。

保険料金			
保険期間	Aタイプ	Bタイプ	Cタイプ
8日～10日間迄	12,150円	18,910円	30,760円
11日～14日間迄	12,650円	19,610円	31,760円
15日～17日間迄	12,960円	20,020円	32,320円
18日～21日間迄	13,510円	20,820円	33,520円
22日～24日間迄	13,920円	21,330円	34,180円
25日～27日間迄	14,490円	22,160円	35,410円
28日～1ヵ月間迄	14,740円	22,510円	35,910円

インド大陸、中近東方面へ当社独自のプランをいたしております

### ツアー名

- ★シルクロード 6,000キロ
- ★ネパールとアフガニスタン
- ★砂漠の国アフガニスタンと最後の桃源境フンザ
- ★大ペルシャとアフガニスタン

——お問い合わせは下記まで—— 一般登録 372号

### (株)トラベル ジャパン

〒100 東京都千代田区有楽町2-2-1  
ラクチョウビル5F 電話 (03) 572-1461  
担当——— 外池・小島・丹羽・藤本

### 小チベット ラダックへ ベース料金 234,000円

〔東京・デリー・スリナガル往復、デリー宿泊料金〕

8月4日発：19日間、28日間／8月7日発：9日間、14日間／各20名  
現地費用は別途(例)9日間／3食ホテル付観光含95,000円

### ヒマラヤでお正月を ベース料金 212,000円

〔東京・カトマンズ往復、デリー及カルカッタの乗継代含〕

12月25日発：29日間／12月26日発：15日間／12月29日発：8日間／各20名  
現地費用は別途(例)8日間／3食ホテル付観光含74,000円

以上はいずれも52年4月1日を基準にしています。現地事情その他で変更する場合があります。

主催：トラベル・ジャパン (株) 一般登録 372号・取扱主任… 外ノ池 愉平  
〒100 東京都千代田区有楽町2-2-1 ラクチョウビル5F TEL574-0241

